

【短報】佐渡島で採集したヒメドロムシ

新潟県佐渡島は、国内では主要4島と沖縄本島に次いで大きい面積約855 km²の島嶼である。佐渡島における水生甲虫相についてはこれまでにいくつかの報告があるが(佐藤, 1961; 帆苅ほか, 1994), ヒメドロムシ科の記録は見当たらない。筆者は佐渡島において5種のヒメドロムシ科を採集しているの、ここに記録しておく。標本の採集・保管はいずれも筆者である。なお佐渡島の行政区はすべて佐渡市であるため省略した。

キスジミゾドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (Schönfeldt, 1888)

10 exs., 新穂瓜生屋国府川, 7. VIII. 2007; 2 exs., 新穂潟上天王川, 8. VIII. 2007.

本種は灯火によく飛来するため各地での記録は比較的多いが、一般的に水中から得られることは少ない(野村・馬場, 1961; 吉富ほか, 1999)。しかしその一方で、隠岐島後や種子島などの島嶼部では水中から多数採集されている(林・島田, 2006; 上手ほか, 2017)。今回、佐渡島においても水中から多数採集・確認しており、興味深い現象である。

ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura, 1958

3 exs., 新穂潟上天王川, 8. VIII. 2007; 1 ex., 新穂正明寺北沢, 16. I. 2009.

本種はヨツモンヒメドロムシ *O. rugulosus* Nomura, 1958 と酷似し、その区別点についてはあいまいな部分が残るが(緒方・中島, 2006)、ひとまず前胸背が黒色であることから本種と同定した。

マルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* (Nomura, 1959)

1 ex., 新穂潟上天王川, 8. VIII. 2007; 1 ex., 戸地戸地川, 13. X. 2008; 8 exs., 新穂正明寺北沢, 16. I. 2009.

ヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria brevis* (Nomura, 1958)

2 exs., 新穂潟上天王川, 8. VIII. 2007.

ツヤドロムシ *Zaitzevia nitida* Nomura, 1963

2 exs., 新穂瓜生屋国府川, 7. VIII. 2007.

体型がやや細長いこと、背面の光沢が強いこと、上翅点刻列が大きく明瞭であること、上翅端部の側片の幅が一様であることから本種と同定した。

島内には今回採集を行った他にも多くの水系があり、標高1,000 mをこえる山地もあることから、

未発見の種も多いと考えられる。今後さらなる分布調査が進展することを期待したい。

末筆ながら、文献情報についてご教示いただいた岩田泰幸氏、本報作成にあたりご意見いただいた林成多博士(ホシザキグリーン財団)、上手雄貴博士(名古屋市衛生研究所)、吉富博之博士(愛媛大学)、採集の機会を与えていただいた島谷幸宏博士、鹿野雄一博士(いずれも九州大学)にこの場を借りてお礼申し上げる。

引用文献

- 林 成多・島田 孝, 2006. 島根県東部および隠岐諸島のヒメドロムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 127-143.
- 帆苅信夫・富樫繁春・本間義治, 1994. 新潟県産水生昆虫と所載文献目録の総括. 越佐昆虫同好会特別報告, (2): 419-453.
- 上手雄貴・上手奈美・中島 淳・森井隆文, 2017. 種子島で採集した流水性甲虫. さやばねニューシリーズ, (26): 31-34.
- 野村 鎮・馬場金太郎, 1961. 新潟県のドロムシ類. 昆虫学評論, 13: 27-34.
- 緒方 健・中島 淳, 2006. 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 227-243.
- 佐藤正孝, 1961. 馬場博士採集の新潟県産水棲甲虫類 (I). 新潟県の昆虫, 4: 6-15.
- 吉富博之・白金晶子・疋田直之, 1999. 矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究, (3): 95-116.

(中島 淳 818-0135 太宰府市向佐野39 福岡県保健環境研究所)

【短報】北海道初記録のゾウムシ科甲虫2種

筆者が2016年および2017年に採集したゾウムシ科甲虫のうち、北海道での採集記録がないと思われる2種を見いだしたので報告する。なお、これらは全て筆者が採集・保管している。

1. ツツジトゲムネサルゾウムシ *Mecysmoderes fulvus* Roelofs

1 ex., 爾志郡乙部町元町宮の森公園, 21. V. 2016; 2 exs., 同所, 24. IX. 2017. (図1)

植栽されたと思われるツツジ科植物から得た。本種は、中谷(2013)が北海道から初めて記録したものであるが、その後中谷(2018)により誤同定であったことが報告されている。

2. アカスジケツブゾウムシ *Smicronyx rubricatus* Kôno



図1. ツツジトゲムネサルゾウムシ.



図2. アカスジケシツブゾウムシ.

1ex., 松前郡松前町字館浜折戸浜海岸, 1. VII. 2017. (図2)

海岸脇の草本類のビーティングにより得た. 本種の分布域は, Morimoto & Kojima (2007) によると, 本州, 四国, 九州, 中国, 台湾, 極東ロシアとなっているが, 北海道からの記録はなかった.

引用文献

Morimoto, K. & H. Kojima, 2007. Weevils of the genus *Smicronyx* in Japan (Coleoptera: Curculionidae). The Entomological Review of Japan, 62(1): 1-9.
 中谷正彦, 2013. 「摩周湖の昆虫」コウチュウ目追加記録. Sylvicola, (30): 148-150.
 中谷正彦, 2018. 「摩周湖の昆虫」コウチュウ目追加記録 II. 道東の昆虫と自然, (4): 60-62.

(柏崎 昭 001-0031 札幌市北区北 31 条西 6 丁目 2-10)

【短報】オオダングラチビタマムシの加計呂麻島からの記録

加計呂麻島は, 大島海峡を挟み奄美大島の南岸と向かい合う面積約 77 km² の海岸線が複雑に入り組んだ細長い島である. 同島におけるタマムシ科甲虫の記録は非常に少なく, 現在までに 2 種の分布が確認されているにすぎない (大桃・福富, 2013; 酒井, 2017). 筆者の一人である吉武は, 加計呂麻島においてオオダングラチビタマムシ *Trachys dilaticeps* Gebhardt, 1928 を採集しているので, 同島初記録としてここに報告する.

1 ex., 鹿児島県大島郡瀬戸内町渡連安脚場, 7. VI. 2016, 吉武採集 (図 1).

本個体はスダジイ (ブナ科) のビーティングによって得られた.

日本国内におけるオオダングラチビタマムシの分布は, 今回新たに記録された加計呂麻島以外に, 南九州および上甕島, 屋久島, 種子島, 口永良部島, 奄美大島, 徳之島, 沖縄島, 石垣島, 西表島において確認されている (大桃・福富, 2013; 瑤寺・吉武, 2018). 本種の寄主植物が南西諸島に広く分布するスダジイであり, この地域においては一部の主要島を除きタマムシ科甲虫相の解明が遅れている (瑤寺・吉武, 2018) ことから, 今後調査が進めば, さらに新分布記録が増えるものと思われる.

なお, 検視標本は (国研) 農研機構・農業環境変動研究センターに保管されている.

引用文献

大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. 206 pp. むし社, 東京.
 酒井 舜, 2017. 加計呂麻島・与路島におけるタマムシ科甲虫 2 種の記録. 月刊むし, (559): 57.
 瑤寺 裕・吉武 啓, 2018. 徳之島におけるタマムシ科甲虫の採集記録. 月刊むし, (565): 12-17.



図1. 加計呂麻島産オオダングラチビタマムシ.

(瑤寺 裕 243-0034 厚木市船子 1737 東京農業大学昆虫学研究室 (吉武 啓 305-8604 つくば市観音台 3-1-3 (国研) 農研機構・農業環境変動研究センター)